

Nihongo Network News

2003.11.21発行

No. 44

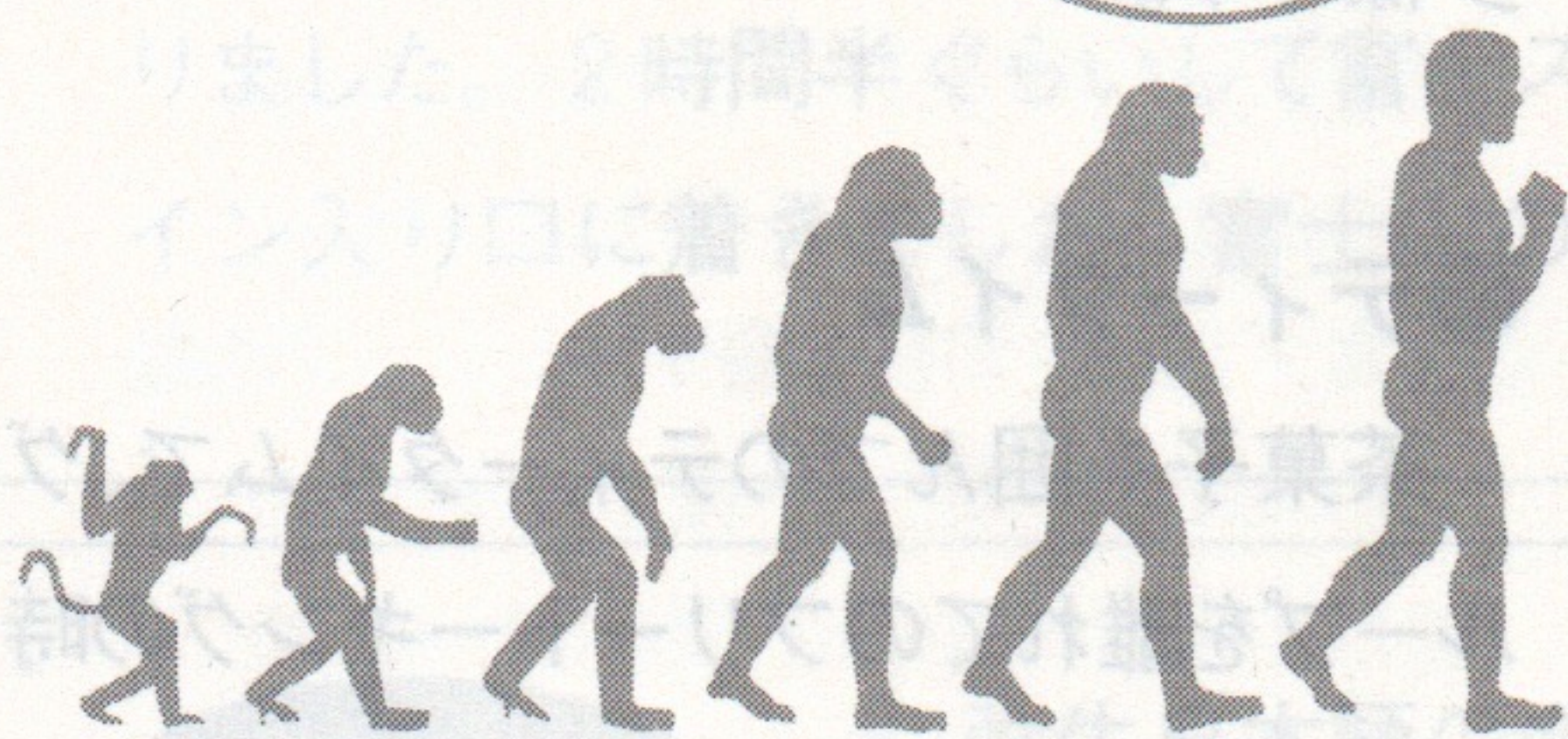
TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

TNVN 10年の 活動から



設立の動機・キッカケ

言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人を隣人として支援するため、それぞれ地域にボランティアによる日本語教室やグループが誕生しています。

- ①区市行政・公民館・民間等が開催する「日本語ボランティア講座」終了後、有志が中心となりグループを作る。
- ②国際交流協会等が地域に住む外国人に暮らしやすい環境を作り、外国人と日本人が気軽に交流する目的として「日本語学習」の場を設ける。
- ③有志が自主グループをつくり、地域に住む外国人が日常生活を通し言葉の問題で苦勞をしている人達に日本語の学習支援をする。
その中には『子どものための日本語教

日本語ボランティア活動は 進化する！

ニュースレターから活動が見えてきます

東京日本語ボランティアネットワークは今年平成15年12月6日で満10年を迎えます。情報の提供として、ニュースレター（Nihongo Network News）をTNVN結成後間もなく創刊号(1994.2.28)を発行し、最新号43号（2003.9.12）まで日本語ボランティア活動の状況をお届けしてきました。毎回掲載してきました会員団体紹介（Nice to Meet You）96団体の記事から日本語ボランティア活動を辿ってみました。そこからは10年変わらない共通な目的を持った活動がうかがえます。

室を作る』『外国人のための日本語教室で受講した外国人からの希望で』等もあります。

活動の状況

●学習者の背景・希望

日本語を学ぶ気持ちは同じで、『もっと日本語をおぼえたい』『日本人と話すチャンスがほしい』『日本の人をもっと知りたい』『日本の文化に触れてみたい』と希望は尽きないようです。

また言葉の問題を解決するだけでなく、たくさんの人とのふれあいを求めて日本語ボランティア教室に参加しています。

●学習者への対応

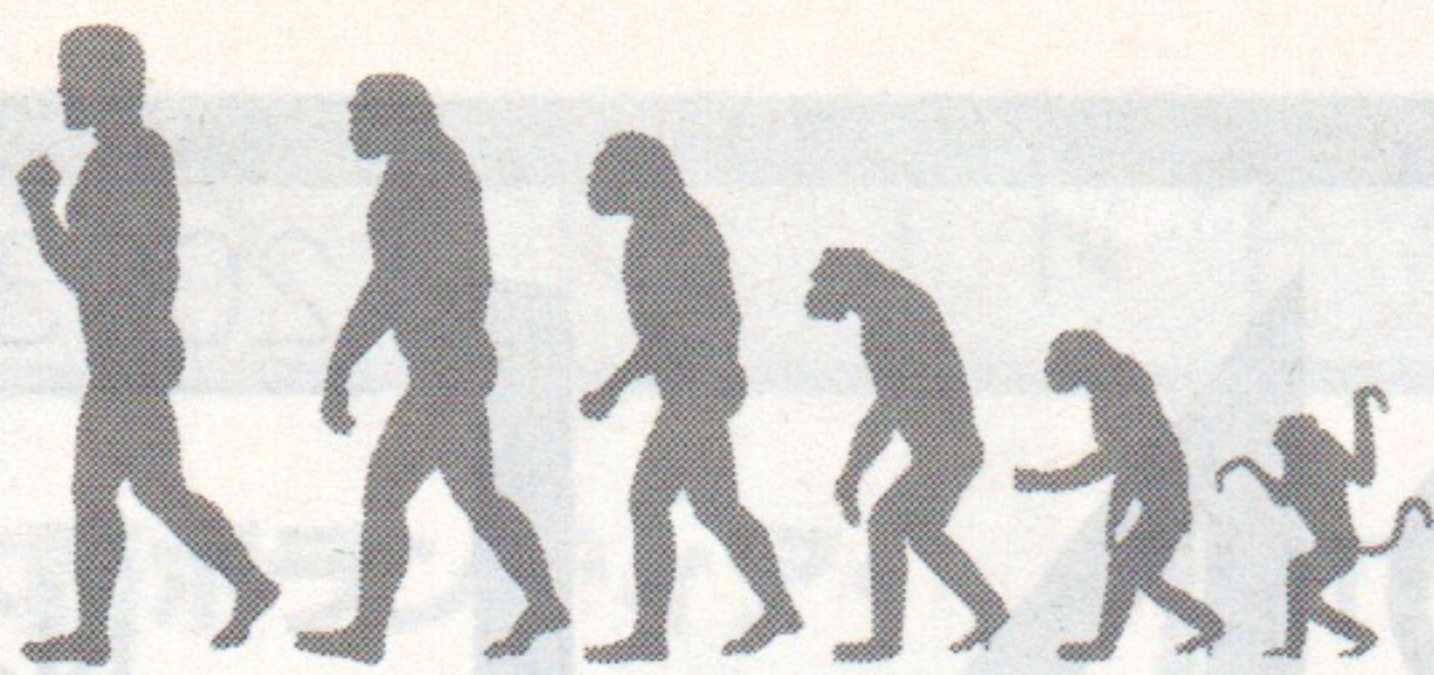
日本語学習の場は『日常生活に適應できるよう、日本で生活する上で必要な

知識や事柄の学習』『日本で外国人が生活しやすくするためのコミュニケーションや生活情報提供』『日常生活での相談や協力、地震・火災など日本の社会の様々な出来事も話し合っています』。

更に『学習者との心の触れあいからお互いの信頼を築き、日本語や日本の文化をよく理解してもらい』『外国人に心の支えとなれるよう努力し』『「オアシス」となるよう願っています』。

学習の場では『さまざまな価値観と異文化のなかで、生活する上での言語・文化・法律・習慣の違いや情報不足による不便を解消、国際交流と親睦、交流を通してお互いに国際理解・信頼関係を築き、良き友を得ること』と多くの役割が果たされています。

『日本語の学習を通して交流し、学び合う場』『教科書にはない日本語を学ぶ、日本語を教えるとかではなく、あの人と



はどうやって話題を共有できるのか』が基本にあります。

この活動の中から『行政は学習環境を含め生活環境の整備に努め、私たちは学習支援など一層の市民交流を進めて、共に歩めるコミュニティ作りの一助に』と願う意見が有るのは必然でしょう。

●教材・カリキュラム

『発足当初は教科書や教材も少なく、日本人会員が簡単な教科書や教材やプリントなどを手作り』していましたが、『その後の日本語学習ブームでこの分野は驚くほど充実』しました。

『初めて学ぶ人達の日常生活にすぐ役立つ手頃なテキストがない』ので、テキスト作りをする団体が有ります。自主制作の『漢字テキスト「生活漢字306」』『「学校生活にほんごワークブック」』等が紹介されています。

『テキスト・カリキュラムを固定せず、学習者が持って来た教材をマンツーマンで対応』し『学習者のレベルとニーズに合わせた自由な対応』がされています。

『日本人と結婚した人達にも対応できるように実践的なカリキュラムがほしい』『学習者をいかに定着させていくか、教材作りの工夫など課題も多く』『日々の暮らしでは会話と漢字の読み書きの出来ることが必要』などなど……

●子どもの学習

『小中学校に在籍するニューカマーの児童生徒は、原則として適応講師による日本語指導を受け、半年もすると日本語もある程度わかり、学校生活にもなじむが、言語や生活の違いに苦しむこともめずらしくない。その結果、受けたストレスから生徒が登校拒否や理解

に苦しむ行動に出ることがあります』

『年少者への日本語学習支援で、気をつけなければいけないことのひとつに「発達段階」にある、特に年齢が高い子どもには、来日後の早い時期から自主的な生活が送れるようにすること』その他切実な意見があります。

●学習者からボランティアが学ぶ

『いっしょに学ぶ姿勢が大切、その方に合った学習方法、一人一人顔の見える関係を築く』ことから『ボランティアは、異文化に触れ、その違いを理解、世界の国々がとても身近に感じる』

即ち『学習を通して、お互いの文化を知り、文化・世代を超えた交流の場』となり、『お互いの理解と共感を大切に活動』『相互の信頼と励み』『日本で生活するうえで生じる様々な問題を共有』しています。

『ボランティア活動を通じて世界中に日本語を理解し日本を深く知った人々がおり何処の国の人達とも交流の出来る平和な世界を願っています』。

●勉強会

各団体は『創意と工夫で日本語教授内容・技術を更に充実させるために、隔週1回1時間程度の勉強会』『日本語の教授能力向上』『クラス運営に関しての諸問題の解決に向けての話し合い』『ボランティア相互のつながりの強化の場』『月一回交流会・意見交換』など独自の取り組みをしています。

教室活動

●場所

活動の意欲があっても先ず場所の確保が欠かせない。

活動の場である会場には、ボランテ

ィアセンターの会議室・学習室、女性センター、公民館や市民センター、生涯学習センター、図書館、小学校の開放会議室等の公共施設があります。

しかし最近、区の文化施設が有料化されて活動に支障を来たし、また一般の生涯学習活動と同一に扱われ部屋の確保に行政の配慮を望む声がでています。

●クラス分け

『一番の苦労はきめ細かなマッチング』『教室の考え方や学習者・ボランティアの事情により、レッスンはマンツーマンから小グループ・教室形態まで』多様です。

●ティータイム

茶菓子を囲んでのティータイムで、グループを離れてのフリートーキングの時間を設けているところがかなりあります。

●保育室

数は少ないが『学習者のこどもを託児ボランティアが面倒を見る保育室が設けられ、安心して学習出来る』場所があります。

●課外活動他

日本語学習を離れて日本の文化と学習者の国々の文化を共有する活動も活発で、茶道・書道・着付け、年末年始の行事、花見、花火、色々なお祭りへの参加等、多種多様です。

学習者は外国料理の講習会、また小中学校に招かれて、異文化交流など、積極的な役割を果たしています。

●会報

会報を発行し、外国の方達と日本人・会員相互の交流を深めています。

(梶村)



日本語はだれでも教えられる？

目を開かせてくれる中学生の取り組み

足立区立淵江中学校日本語ボランティア活動より

バンバンバーン、当たり、よくできました。澄んだ女生徒の声が教室にさえわたる。

3年前に始まった「総合的な学習」の一環として定着した、日本語ボランティア体験学習の現場である。今回は、数の数え方と助数詞の使い方を、買い物をするという実践活動のなかから学ぶというものである。

まず、数の数え方と数字の読み方(音と訓読み)を一通り学習した後、中学生が、数えられる「物」を絵に描いて持ち、それを学習者が数えるというゲームである。

いっこ、にこ、さんこ、よんこ〜。いっぽん、にほん、さんぼん〜。ひとり、ふたり(訓読み)、さんにん(以上は音読み)〜。いっぴき、にひき、さんびき〜。いちまい、にまい、さんまい〜。バンバンバーン、よくできました。間違いなく数えられると、拍手がわきあがる。

続いて、買い物カードが配られ、指定された商品の数だけ模擬買い物をし、助数詞の使い方とお金の数え方を学習する。

この中学生のボランティア活動が、地域に住む、さまざまな外国人との交流の場ともなり、また、日本語の教え方についても、失敗談や成功した例など、中学生なりに内部情報が蓄積され、興味関心が高まってきたようである。

学習指導要領には「外国の文化を具体的に理解できるようにする」とある。

「日本語を教える」という体験活動によって、反対に相手の国の言葉やさまざまな文化について学ぶ、すなわち、体験学習することができるのである。

日本語ボランティアほど国際理解や異文化交流の最先端に位置しているものはない。学習者との「出会い」という双方向のなかから、五感を通じた体験により、何かを感じ取ってほしいもの

である。

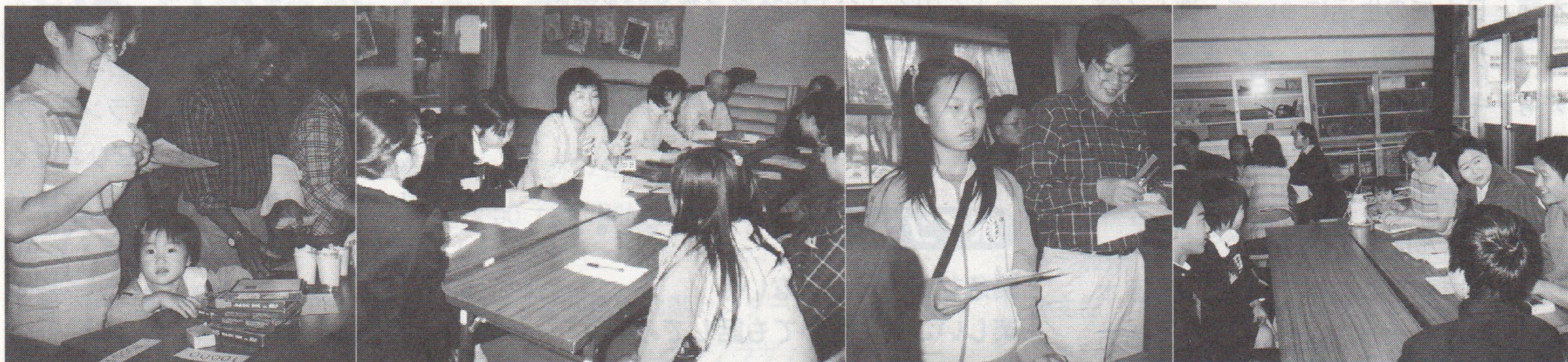
最初はアガっていた中学生も、宮崎靖子教諭の巧みな指導と見事な学習者の受け答えで、大いに盛り上がった。

【お願い】

ところで、よく日本語教育の専門家といわれる人から、「日本語はだれでも教えられない、国語と日本語は違う、媒介語は使わないほうがよい、ボランティアにも420時間の教育が必要」など、日本語ボランティアの現場を知らない発言が目立ちます。このようななかで、東京大学 栖原 暁教授の「日本語ボランティアのエネルギーはどこに向かうのか？」(TNVNニュースレター No.43)は大変参考になります。

また、この中学生たちの取り組みから、なにを感じるか、みなさんのご意見をお待ちしています。

(グループWA 代表 木村茂)



一押し の 教材

日本語学習の
教材は数多く
出版されています。

しかし日本語ボランティア活動で実際に使えるモノを探すのはなかなか大変です。ここでは日本語ボランティアが使える「一押し教材」を出版社から自薦して貰いました。

学習を終えると、 そこには世界に1冊しかない教材が！

(仮) ボランティアで生活にほんご

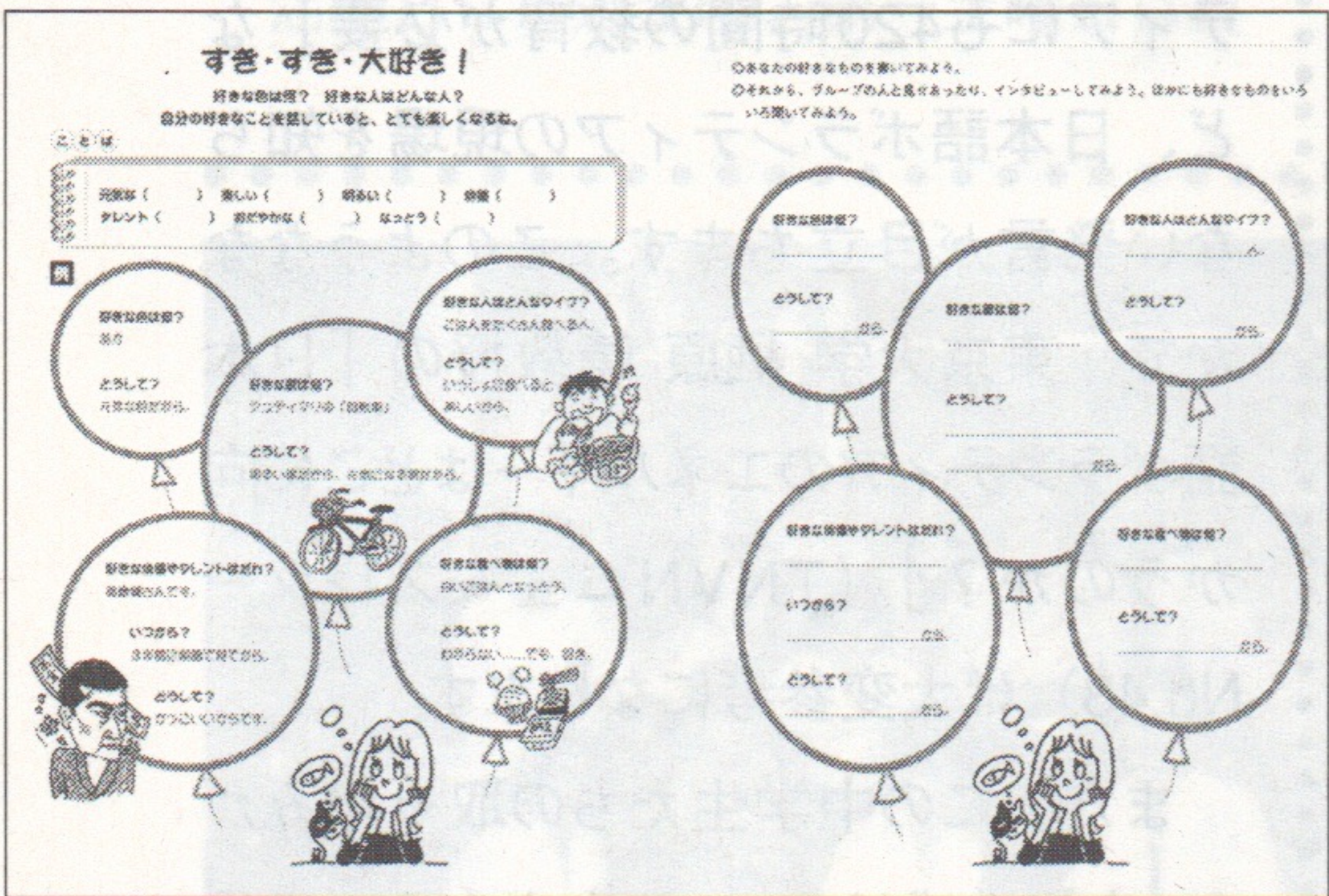
株式会社アスク

【学習者用】B5判、112ページ、予価1,000円

【ボランティア用】B5判、128ページ、予価2,000円

2004年2月発売予定

昨今、どこの街でもそこで生活する外国人が見うけられます。様々な言語や文化背景を持った人たちが、社会の中で共存していくことが求められるようになったのです。皆さんの周りにも、日本での生活に困っている、日本人の友達が欲しいと願う、外国人がいると思います。そのような外国人と、彼らを日本語で支援する日本人向けに、とっておきの書籍をご紹介します！



ポイント 1

学習者用テキストで学習、 ボランティア用テキストで事前に準備

学習の場では、学習者用テキストで日本語と日本での生活について、楽しく語らいながら勉強します。またボランティア用テキストは、学習者用と同じトピックで構成され、各トピックでの活動や文法項目を説明しています。つまり、ボランティアさんは事前に活動のシミュレーションができるのです。いわゆる予習本ですね。初めてボランティアをされる方にも安心して使っていただけます。

ポイント 2

学習を終えると、 そこには世界に1冊しかない教材が！

学習者用テキストでは、学習者への生活情報、家族のこと、日々感じることを、日本語を学習しながら綴っていきます。ひとつのトピックごとに、学習者には独自の情報や思い出が詰め込まれ、見事1冊をやり遂げた暁には、世界にたったひとつ、思い出の教材の出来あがりです！

ポイント 3

日本で生活する上で 最低限必要な情報を厳選

各テキストには50のトピックが収録されています。そこには緊急時の対応法、日本人の家族とどう向き合っていくべきかといった、外国人が日本で生活していく中での不安や危険を取り除いていくための方法や情報が盛り込まれています。この場を借りて、ボランティアさんに日常の不安を相談してくる学習者もいるかもしれませんね。そんな時には、ボランティア用テキストに収められている緊急時の相談先リストを参考に、出来る範囲で彼らの手助けをしてあげることが大切です。

ポイント 4

緊急対策だけじゃない！ 楽しいことについても話してみよう

50のトピックには、もちろん緊急対策

や不安解消のためのものだけではありません。好きなこと、家族のこと、文化の違いに驚いたことなどをお互いに話し合っていて、お互いに大切な『仲間』として社会で共存する一歩としてください。

ポイント 5

学習者とボランティアさんとの 対話で生まれる学習

この本は、いわゆる文法学習や会話練習などを集めたものではありません。あくまでお互いの会話や活動の一助としていただくためのお手伝いをしています。初級学習者には関連の語彙を教えるところから、ある程度日本語のできる学習者には話を広げた総合的な学習ができます。ボランティアさんの工夫ひとつで、学習者の日本語力が上がると嬉しいですね。学習者の要望にあわせて、自由に楽しい時間を創り上げていきましょう。

今回ご紹介した2冊は、日本での生活を充実させたい外国人と、その過程を共有したい日本人ボランティアとの共同作業で成り立ちます。すでにボランティアをされている方も、これからボランティアをやってみようという方も、ぜひお近くの外国の方と一緒にチャレンジして欲しい1冊です。テキストをやり終えたとき、そこにはたくさんの情報と思い出が詰まった本だけではなく、目に見えない『大切なもの』も完成していることでしょう。

いっくら国際文化交流会

事務局 〒320-0065 宇都宮市駒生町3351-50

創設会長 長門芳子 Tel&Fax:028-625-0050

http://www8.plala.or.jp/iccla

地球家族のきずな求めて

「いっくら」とは、会の英語名「Inter Cultural Community Life Association」の頭文字のひらがな表記で、地域から草の根の生活者の交流、生活文化の分かち合いを目指したボランティア活動をするの意です。会を創立して21年目になりますが、1984年に実施した

「在住外国人の日常生活に関するアンケート」の結果を踏まえ、外国人への日本語支援、ボランティアの人材養成、セミナー・シンポジウムの開催、日本語スピーチコンテスト実施（16年目）、ホームステイ（対象国92か国受入れ）、食文化交流、「モンゴルと日本の昔話」（モンゴル・日本語対訳）出版、機関紙「いっくら」No.1～No.88の発行など、地域ニーズと分野を超えた“ネットワークと協働”により、多岐にわたる活動を継続して参りました。

地域に住む外国人の急速な増加に伴い、日本語支援のニーズは高く、日本語スタッフ総動員で、毎週県立高校で

学ぶ留学生への日本語指導や市協会の日本語講座への協力をしています。創立20周年を記念して、今年、多文化共生を目指す「志」を同じくする他の団体に呼びかけ「ひまわり・親子で日本語」ネットワーク会を立ち上げ、就学前の子どもを持つ外国人への「日本語支援」「子育て支援」「自立支援」の活動も始めました。

「外務省長期青年招聘事業」の受け入れは、11年間でアジア6か国142名の研修生を送り出しましたが、今年は従来のアジア6か国に、中央アジア5か国の青年が加わり研修中です。日本語既習者8名、未習者7名を3クラスに分け、生活の中で使う日本語や日本文化・日本事情の習得が目的で指導しています。教室の授業、フィールドワーク、ホームステイ、日本文化体験、学校訪問、企業視察、研修旅行を通して、言語の背景にある日本社会や日本人を多面的に理解していただきたいと

スタッフ一同が真剣勝負の毎日です。

10年前にお世話したTS.プレブスレンさんは現在、モンゴル国立人文大学の東洋学部長・教授に昇進され活躍中ですが、来年1月中旬から同学部の日本語専攻の学生を「日本語短期研修」のため2週間招待することになっています。さらに、日本語スピーチコンテスト15年を纏めて日本語の副教材「外国人の目で見えて体験した日本文化・日本事情」を出版する予定です。プレブスレンさんとの共通の願いだった同大学と宇都宮大学との「国際交流協定締結校」が実現し、両大学の学术交流や学生の交流が始まる予定です。

「地球家族のきずな求めて」いっくらの草の根ボランティア活動が、国境を越えて世界の平和にささやかな貢献ができることを信じ、ミッションを持って活動を継続します。



東京日本語ボランティア・ネットワーク10周年記念の集い

いま 日本語ボランティアは!!

—ともに暮らすまちをめざして—



◆日時：2003年12月7日（日）
13:00～17:00（受付開始12:30）

◆会場
東京ボランティア・市民活動センター 会議室A・B
新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ 10階
JR、地下鉄有楽町線、南北線、東西線、大江戸線
飯田橋駅下車1分

◆発表と話し合い

- 1.現状報告とよりよい活動のためへの提言
発表者（都内の日本語ボランティア8名）
- 2.グループ別話し合い
- 3.まとめと手作り教材紹介
- 4.懇親会

◆参加費：なし

◆主催

東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆問合せ先

e-mail webadmin@tnvn.jp

Nice to Meet You

秋学期のテーマは何にしようか……………

ことばのひろば

大内 多恵子 (板橋区)

夏の初め、毎年やって来るグループ一番の懸案事項です。

主に基礎的学習は済んでいて、語彙を増やし、会話をたくさんしたいという学習者が中心になっているわたしたちの教室では、秋、冬、春、夏学期、それぞれにテーマを設け、たくさん話のやり取りをするという目的で教室活動を進めています。

活動日は毎週土曜、第一土曜日は打

ち合わせ日で、その月の学習内容を詳しく決めていきます。テーマの設定は各学期末に出してもらう学習希望アンケートを参考に、加えて現在の学習者にはどんな学習が役に立つのか、魅力があるのだろうか、学習者一人一人の顔を思い浮かべながら、取り上げたいテーマを決定するまであれこれ話が弾みます。そして月ごとのスケジュールを立て、教材や学習内容のあたりをつけ、受け持ち分担を決めて一段落。

ある年、タイの学習者の「夫の仕事を手伝っているが、仲間がみんな男

性のためか、『あなたの言葉はおかしい』と義母に言われた。女性らしい言葉遣いを教えて」という希望から、『あんな言い方こんな言い方』として、『若者言葉』『普段語、丁寧語』に広がっていきました。各学期のまとめを小冊子にしており、学習内容や折々の学習者の考え方、意見も載せて学期の終わりにみんなの財産として楽しく読んでいます。この秋学期のテーマは、『ことばの楽しみ』。それぞれの国の諺やことば遊びなど、学習者と共にことばの世界を広げていっています。



市内在住の外国人との交流・支援

多摩市国際交流センター 日本語セミナー

代表 高橋 厚 (多摩市)

土曜クラス

(14:00~16:00) があり

「日本語セミナー」は有志による立ち上げが13年前、その後TIC（多摩市国際交流センター）の活動の1部門となつてから10年が過ぎています。TICの活動自身が市内在住の外国人との交流と支援を目的としたものです。したがってTICにはその他の形で交流・支援活動をする部門もあります。

「日本語セミナー」は
月曜クラス (10:00~12:00)
木曜クラス (19:00~21:00)

ます。学習者は総数で120人、指導者（日本語ボランティア）は50人です。学習の方法は1人のボランティアがレベルの近い学習者を数人まとめて指導する方法をとっています。学習者のレベルと目的などがそれぞれ違いますから、1対1が望ましいのですが、ボランティアの数が少ないためそれができません。

このセミナーの目標は、あくまでも外国人が日常の生活において不自由が

無い程度までのお手伝いとしています。ですから教材もそれぞれ違っています。なかには子どもが学校から持ってかえてきた配布物の説明に追われている場面もあります。

学習は1年を3期に分けて進めています。それぞれの学期の終わりには「茶話会」を行ったり、春には花見の会も設けています。またTICとしての「ウェルカム・パーティ」やら「忘年会」を行います、そのような時には手作りのお国自慢の料理を持参してくれたりして和やかにやっています。

富士山の魅力

呉美順 / 韓国
やさしい日本語 (江東区)

学習者の声

は白松、杉、名前のわからない木などきれいなたくさんの木がおいしい空気を出していました。

やはり「フジサン」とおもったんですが、五合目に到着してあたりをみまわしてがっかりしました。5合目目から木がないのは火山の影響だともうんですが、ごみがあちこちにすてられてなんとなくかなしくなりました。自他が認める日本の象徴だったのに……

家族と記念写真をとってバスに乗りました。おかしいけどバスが富士山からはなればはなれるほどきれいにみえました。

確かに富士山の魅力は、とおいところでもみえる「白妙の高嶺」でした。



「日本旅行といえばなに？」

「富士山と温泉」

日本に来る前、友だちとの会話でした。

昨年夏休み、韓国から来たしゅうとめと家族で観光バスに乗って富士山へ行きました。日本へ来て2年間たって行く旅だからむねがわくわくしました。

バスは東京駅からうつくしいレインボーブリッジを経由して東京湾の道路を順調に走りました。2時間半ぐらいして富士スバルライン入り口に着きました。富士山の入り口

ボランティアの声

武田純子
弥生日本語の会 (文京区)

「弥生日本語の会」の研究者たち

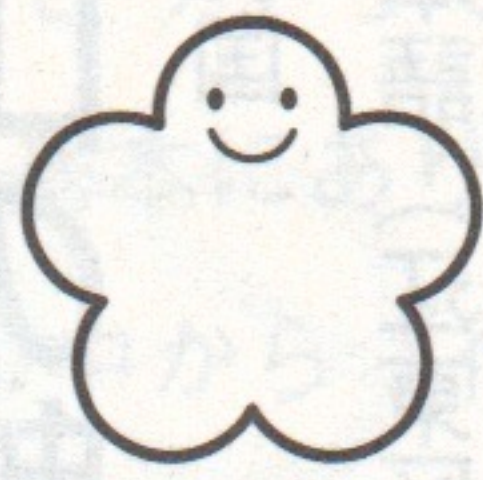
弥生日本語の会は学習場所が大学に近接しているため、学習者の半数近くが研究者です。しかしひとくちに研究者といっても、「弥生」に来ている目的は一様ではありません。大学内の日本語教室に定期的に参加している留学生たちは、「弥生」では日本人との自然なふれあいやおしゃべり、仲間たちとの情報交換、日本の行事や催し物への参加、奨学金の申込書やレポート、個人的問題の相談などを目的としていて、楽しみながら上手に参加してくれています。専門に関する教材や質問を持ってくる人もいます。一方「弥生」



に来て初めて日本人と日本語で話す経験をし、週1回の集まりを日本語学習の貴重な機会としている学習者もいます。こちらは研究員や家族などに多く、日本語を基礎からじっくり学びたい人、自国で学習してきた日本語を復習しながら、実際に使う練習をしたい人などです。

来日したての研究者は、まずは生活のノウハウとともに最低限必要な日本語を、時には教科書にはのっていないが自分にとってはすぐにでも必要なことばや表現も知りたいと考えています。やがて日本および日本人（研究生活も含めて）に対する思いのたけや疑問をボランティアにぶつけたいという欲求も生じてきます。日本語が自由に使えるようになると、いろいろな話題についてみんなと存分に語りあいたい人もいます。大学内ではそのような機会が意外と少ないようです。みんなが「今日も弥生に来てよかったね」といえるよう、学習者が抱えているさまざまな思いをしっかり受け止めて活動したいと思っています。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局



〒162-0823東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックスNo.4

TEL : 03-3235-1171

(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp (変更)

URL : http://www.tnvn.jp/ (変更)

事務局は下記の通り活動しています。

◆日時: 毎週金曜日

第1、第3、第5、金曜日午後2時～4時

第2、第4、金曜日午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

日本語ボランティア相談窓口

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にベテランスタッフがおこたえします。電話でご確認の上、お気軽におこしください。またE-mailでも応じております。

TNVNへの入会を希望する方

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

◆入会手続

申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。E-mailでも申し込めます。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費

正会員: 年会費3,000円

協力会員: 年会費2,000円

賛助会員: 年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
(通信欄に『年会費』と記入)

TNVNスタッフ募集!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員、・「ボランティア日本語教室一覧」編集員などにTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。ご一報をお待ちしています。

E-mail : webadmin@tnvn.jp

日本語ボランティア入門講習会

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター
飯田橋セントラルプラザ10階会議室
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費

1回600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしください。

◆日程・内容

同じ月の講座はほぼ同じ内容です。

2日の内、いずれかを受講下さい。

◎12月/日本語ボランティア活動の事例

12月12日 (金) 午後2:00～4:00

12月26日 (金) 午後6:00～8:00

◎1月/日本語ボランティアとは?

1月9日 (金) 午後2:00～4:00

1月23日 (金) 午後6:00～8:00

◎2月/地域での日本語ボランティア活動

2月13日 (金) 午後2:00～4:00

2月27日 (金) 午後6:00～8:00

◎3月/日本語学習をどのように

支援しているか。

3月12日 (金) 午後2:00～4:00

3月26日 (金) 午後6:00～8:00

ボランティア日本語教室一覧

(ボランティア日本語教室ガイド)

最新版発行の準備を開始します。
ご協力をお願いします。

先の43号(2003.9.12発行)でお知らせしましたとおり、TNVN発行の「ボランティア日本語教室ガイド2000」は幅広くご活用いただいています。発行以来3年を経過し、最新版発行の問合せも多数いただいています。

今般、東京都生活文化局の「東京都民間国際事業助成の助成事業」で「在住外国人支援にかかわるボランティア日本語教室一覧の出版」の助成金(事業の一部費用)を申請し、承認を得ました。これにより冊子発行の作業を開始します。関係団体・教室のご協力・ご支援をお願いします。

今回の最新版「ボランティア日本語教室一覧2004」は都内で活動する日本語ボランティア教室を出来るだけ多数掲載します。

「ボランティア日本語教室ガイド2000」掲載の団体・教室は勿論、掲載を希望される団体・教室を募集します。掲載団体の内、希望団体はTNVNのホームページにも掲載します。冊子への掲載については別途調査表を配布します。

冊子の内容 (予定)

●掲載の対象と範囲

東京都内(区市町村)で活動している掲載可能なボランティア日本語教室

●掲載項目

地域、団体名、活動場所、活動曜日・時間帯、連絡先(TEL/FAX/e-mail)、最寄り駅、学習者会費、入会時期

●体裁

A4冊子 一覧表 和文・英文・ローマ字併記

●調査期間: 平成15年11月上旬～12月下旬

●問合せ先

TNVN「ボランティア日本語教室一覧」

編集担当

e-mail : webadmin@tnvn.jp

●新会員のご紹介

◎正会員

- ◆中央公園日本語教室
- ◆としま火曜日本語サークル
- ◆大塚日本語サークル
- ◆東京キリスト教女子青年会

◎協力会員

- ◆矢加部 百合枝様
- ◆山本 敬子様

*2003年10月31日現在の会員数

正会員 62団体
協力会員 87名
賛助会員 4団体

編集/岡田美奈子、梶村勝利、
木村茂、床呂英一、西岡暉純、
林川玲子、山本敬子
レイアウト/鶴田環恵